

群 教 セ	E03 - 31
	平 15 . 211集

活用しやすい進路指導資料 「『個性、夢』サポート」の作成

長期研修員 星野 竹志

《研究の概要》

本研究は、中学校教員を対象に活用しやすい進路指導資料の作成を行ったものである。
本指導資料の作成にあたっては、一問一答編及び資料編の二部構成とし、社会や教育課程の変化、本県の動向を踏まえるとともに、教員のニーズに応えられることを基本方針とした。また授業実践を行い、参考資料の充実を図った。

【キーワード； 中学校 進路指導 指導資料】

主題設定の理由

近年人々の価値観や生き方は多様化している。また先行きが見えない不況のもと、リストラ、就職難の中、フリーターが急増し、学校では依然として不登校や中退者が多い。こうした時代には、自分の道を自分で切り開いていく力がますます必要になってくる。

進路指導では、生徒が自分の個性を生かし、主体的に進路選択する能力を育むことや、生き方を考えさせたり、望ましい勤労観・職業観の育成が求められている。

学習指導要領(平成10年12月告示)の本格実施にともない、生徒の「生きる力」の育成を目指し総合的な学習の時間が新たに導入されたり、生徒の適応と選択の能力を育成すべくガイダンスの機能の充実がより重視されている。本県でも、公立高校入試における前・後期選抜の導入、中高一貫校の設置など一連の制度改革が行われてきた。

このように社会や教育課程が大きく変化する中で、適切な進路指導を行っていくためには、変化に対応した指導資料が必要であると考え、本主題を設定した。

本指導資料「『個性、夢』サポート」は、中学校教員を対象に、上記の社会の変化、教育課程の変化、本県の動向を踏まえ、

進路指導の位置づけ、進路相談など基本部分を再確認する。

総合的な学習の時間とのかかわり、ガイダンスの機能の充実など新たな部分を紹介する。

学級活動などで活用できる参考資料を紹介する。

の三つを主なねらいとしている。

題名である「『個性、夢』サポート」は、「社会が大きく変化する中で、自分の『よさ』に気づき、伸ばすことにより、自分の『個性』を見つけ、『夢』の実現を目指す生徒を、教師が温かく指導・支援する」という思いを込めて命名した。

研究のねらい

最近の社会や進路指導の動向、アンケートによる学校の要望等を取り入れ、教員が進路指導を行う上でハンド・ブックとなるような、活用しやすい進路指導資料を作成する。

研究の内容

1 進路指導資料「『個性、夢』サポート」の作成の基本方針

進路指導の計画等を工夫したり、学級活動の参考資料になるなど、中学校教員が進路指導を行う時に常に手元において参考にできるハンド・ブックとなるような資料を作成する。作成にあたっては、社会や教育課程の変化、本県の動向を踏まえ、教員・生徒・保護者のニーズにも対応することを主なねらいとする。

2 中学校教員、生徒・保護者、高校教員の要望（ニーズ）の把握

中学校及び高校の新任進路指導主事を対象に進路指導の課題について学級活動、啓発的体験活動、進路相談、新教育課程など七つの項目からアンケート調査を実施した。その際、生徒・保護者から学校に寄せられる要望等についても調査した。調査結果をもとに、進路指導についての要望をまとめたものが、表1である。

中学校教員の要望

項目	課題	主 な 要 望
学級活動	年間計画	・ 3年間を見通した指導をするため、全体計画、年間計画の見直しが必要である。
	連携	・ 担任が個々に資料を用意するので指導にばらつきがあり、連携が必要である。
	自己理解	・ 自己理解の深化（肯定的なもの）や自己理解と職業調べ、職業体験との関連が弱いので、自分を知るといことについての具体的資料が欲しい。
啓発的 体験活動	位置付け	・ 系統性が弱いので、目的や3年間の位置付けをはっきりさせる必要がある。 ・ 十分にねらいが理解されておらず、体験する職業を選ぶ時に明確な理由を持たない生徒が多いので、事前・事後学習の指導内容を充実させる必要がある。
	指導方法	・ 地域の特徴として事業所が少なく、生徒の関心、意欲が生かせないので、事業所の多少にかかわらず、ねらいを達成できる指導法が欲しい。
進路相談	相談内容	・ 1、2年の進路相談の内容がはっきりしないので、教えて欲しい。
	相談室	・ 気軽に相談できたり、資料が見られる相談室の運営の仕方を教えて欲しい。
	資料の管理	・ 教育情報の蓄積の仕方、整理の仕方、生徒たちの提示の仕方を教えて欲しい。
新教育課程	総合的な学習の時間	・ 職場体験学習などを、学級活動、総合的な学習の時間で実施しているので、両者のねらいをどう整合させるのかを教えて欲しい。
	ガイダンス	・ 3年間を見通したガイダンスを行いたい。
高校改革	中高一貫教育	・ 中高一貫教育についての情報が知りたい。
社会の変化	フリーター	・ 中学校は夢を見て、その実現に向けて取り組んでいる最中で、フリーターは他人事になっているので、どのように指導すれば良いかを教えて欲しい。
その他	進路主事	・ 進路指導主事のリーダーシップの取り方がいま一歩わからない。

生徒・保護者の要望

課題	主 な 要 望
学ぶことの 意義の理解	・ どのように勉強したらよいか教えて欲しい。 ・ 子どもがやる気になるような声かけをして欲しい。 ・ 子どもにもっと勉強するように言って欲しい。
高校の情報	・ 学区のしくみ ・ 連携入試の方法について、詳しく教えて欲しい。 ・ 高校の特色（どんな人が向いているか、卒業生の進路）や高校の情報をたくさん教えて欲しい。
その他	・ 必要な時にすぐ進路相談に乗って欲しい。 ・ 年に一回進路相談をして欲しい。 ・ 保護者会でもっと進路のことを取り上げて欲しい。

高校教員の要望

課 題	主 要 望
目的にあった高校進学	・生徒の希望にあった進学。 ・志望動機がはっきりしないまま、学力だけで入学してくる。 ・「個性の伸長」と「わががま」を区別した教育を模索して欲しい。 ・理系志望者が商業高校に来ている。 ・工業高校の実態を把握して入学して欲しい。
高校の情報	・学校説明会に積極的に参加するように指導して欲しい。 ・学校について十分に研究して欲しい。

表1 中学校教員、生徒・保護者、高校教員の要望

3 要望に合わせた対応

上記のアンケートの結果を踏まえ、特に要望が多い「自己理解」「総合的な学習の時間」「職場体験学習」等について、その内容を絞り込み、対応策を示したのが図1である。

中学教員の要望

課 題	要 望
自己理解	・学級活動が職業調べや職場体験学習の事前・事後指導に使われることが多く、通常の進路指導にかかわる学級活動の充実が望まれている。特に「自己理解」については具体的な展開例を望む声が多い。
総合的な学習の時間	・総合的な学習の時間に安易に職場体験学習や職業調べなど啓発体験活動を取り込むのではなく、進路指導との関連を明確にした年間計画が求められている。
職場体験学習の指導法	・職場体験学習では生徒が体験できる職種が限られている。そこで職種に関係なく、ねらいが十分に達成できる事前・事後学習の展開例が欲しい。

生徒・保護者の要望

課 題	要 望
学ぶことの意義	・「なぜ勉強しなければならないのかを教えて欲しい」、「子どもにやる気を出させて欲しい」との声が多い。
高校の情報	・「高校の情報をどんどん教えて欲しい」「高校の特色を教えてほしい」など高校の様子や特色を知りたいという保護者の声が多い。

高校教員の要望

課 題	要 望
目的にあった高校進学	・「個性の伸長とわがまを区別した教育を模索して欲しい」、「志望の動機がはっきりせず学力だけで入学してくる」、「生徒の志望にあった進学をさせて欲しい」など高校進学の目的を明確にして欲しい。

対 応 策
学級活動の展開例 「自己理解」 「学ぶことの意義の理解」 「目的にあった高校進学」
総合的な学習の時間と進路指導との関連を明確にした年間計画
職場体験学習の事前・事後学習の展開例
上級学校の進路情報

図1 教員、生徒、保護者の要望と対応

4 資料の内容

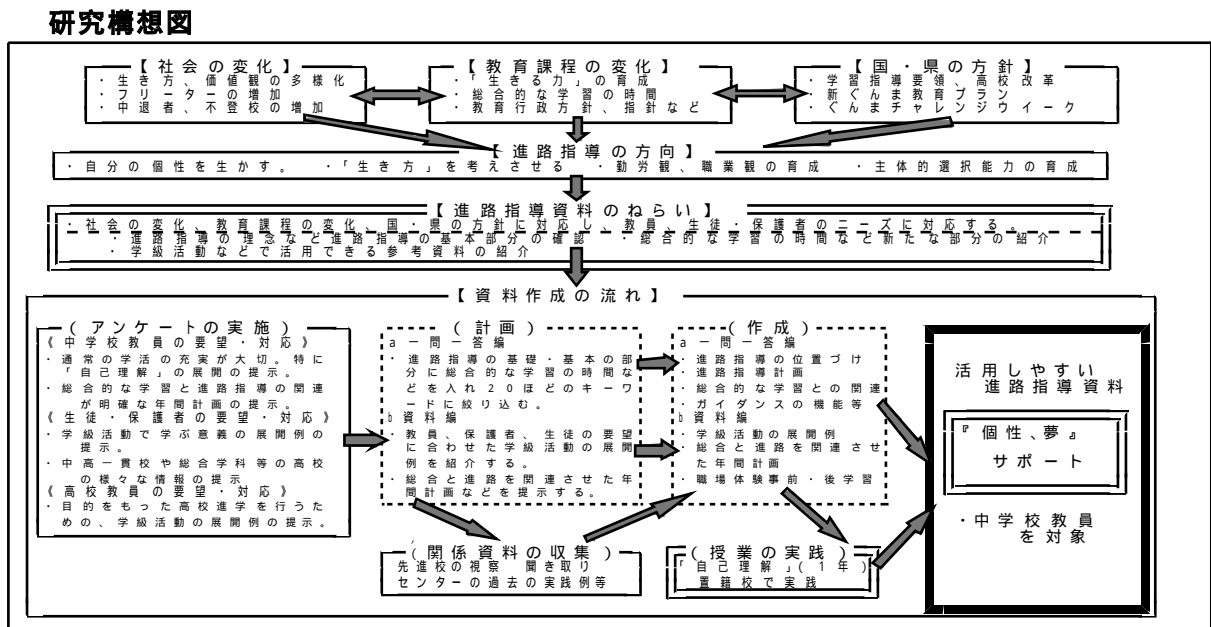
中学校教員、生徒・保護者、高校教員の要望を踏まえ、進路指導の考え方がわかり、実際の授業にも活用できるという観点から一問一答編・資料編の二部構成とする。

一問一答編	資料編
進路指導の基本部分のキーワード	学級活動の展開例
進路指導の理念	「自己理解」
進路組織	「学ぶことの意義の理解」
進路指導主事	「目的にあった高校進学」
年間計画	総合的な学習の時間と進路指導との関連を明確にした年間計画
学級活動	ねらいを十分に達成する職場体験学習の事前・事後学習の方法
啓発的体験活動	
進路相談	
進路情報	
追指導	
高校中退	
保護者との連携	
自己理解	
脱偏差値の進路指導	
進路指導の新たな内容と考えられるキーワード	
【新教育課程】	
総合的な学習の時間とのかわり	
ガイダンスの機能の充実	
中高一貫教育	
学ぶことの意義の理解	
【地域との連携】	
ぐんまチャレンジウィーク	
【社会の変化】	
フリーター	
キャリア教育	
・関係資料を参考に作成	・先進校、センターの過去の実践などを参考、授業実践（1年「自己理解」）を通じて作成
資料の収集・作成の方法	

一問一答編では、進路指導の理念などの進路指導の基本部分に、総合的な学習の時間、ガイダンスの機能の充実など新教育課程の内容、フリーター、キャリア教育等社会の変化など新たな内容と考えられるものを加えて20ほどのキーワードに絞り込む。

資料編ではアンケートの結果をもとにして教員、生徒・保護者などの要望に合わせて、「自己理解」、「学ぶことの意義の理解」、「目的にあった高校進学」などの学級活動の展開例、ねらいを十分に達成する職場体験学習の事前・事後学習、総合的な学習の時間と進路指導との関連を明確にした年間計画を提示する（図2参照）。

図2 進路指導資料の制作の計画



授業実践の計画

価値観や生き方が多様化している現代は、自分のライフスタイルに合わせた生き方・働き方を選択するチャンスでもある。生徒に自分の生き方に自信を持たせるためには、進路指導では自己理解の指導を充実させることが大切である。この指導は、自分のよさに気付き、伸ばすことにポイントを置いている。よさを発見し、将来の進路選択や希望する職業を意識し、その伸長を図ることは、生徒一人一人の個性を伸ばし、生き方の自信につながると考える。

1 3年間を通じての「自己理解」

自己理解の指導では、3年間を通じて継続的・発展的な指導を行う必要がある。この時期の生徒は自分に自信がなく、「他人から自分がどう見えているか」を気にして、自分を素直に出せない傾向にある。そこで、1年次は新しい環境に慣れ、以後の中学校生活をより充実させるため、まず自分のよさを学習、係活動、交友関係など多面的に理解する。2年次では将来の進路を見据えて職場体験学習など体験活動と関連させ、職業とのかかわりで自分自身について理解を深める。3年次では、1、2年次の自己理解をもとに、直前に迫った進路選択を意識して、自分自身を見つめ直す。生徒の発達段階及び各学年での教育活動の関連性を考慮して3年間の「自己理解」の指導のポイントをまとめたものが図3である。

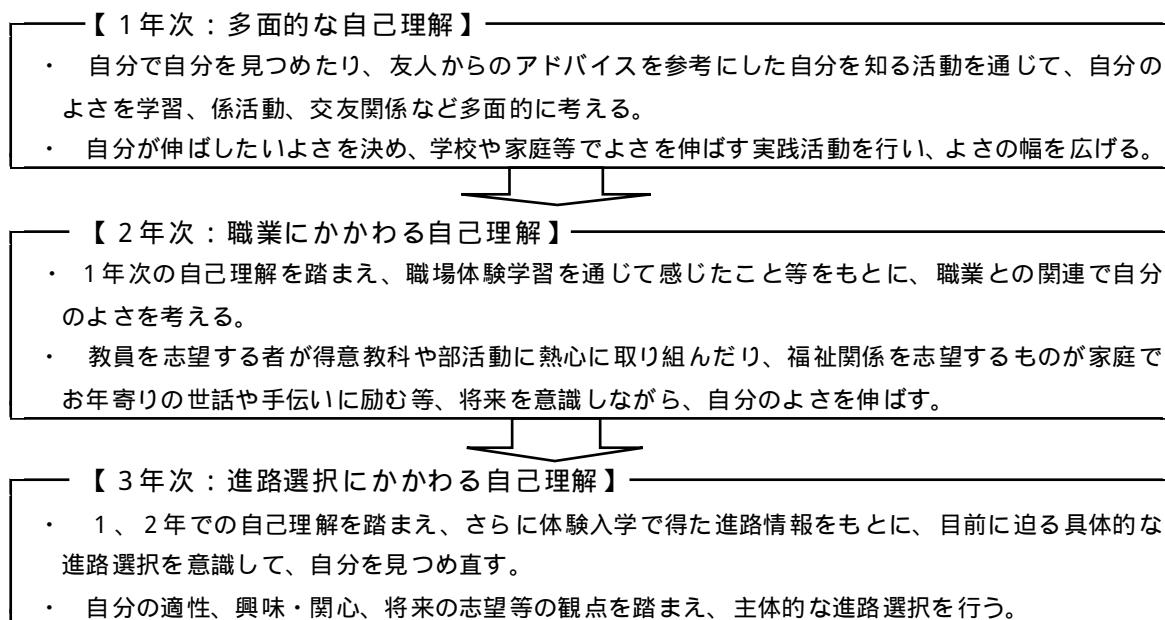


図3 3年間を通じての自己理解

2 授業実践

対 象	中学校 1年1組(37名)、2組(38名)計75名	領 域	学級活動
題 材	自分のよさを見つけ、伸ばす計画を立てよう。	時 間	2時間
研究の見通し	【見通し1】自分自身で考えたり、友だちのアドバイスによって自分のよさを知る活動や中学時代に自分のよさに気づき自信を持った人の話を紹介すれば、よさを知ることの素晴らしさを理解するであろう。 【見通し2】自分のよさを伸ばすための計画や方法の検討、またよさを伸ばすことで成長した人の話を紹介すれば、自分のよさを伸ばす活動への意欲を高まるであろう。		
抽出見	A子・・・温かな性格で、学習への取組も真面目であるが、自分に自信がない。		
検証方法	授業後の感想の記述内容 授業での観察		

3 実践の概要

(1) 見通し1 よさを知ることの素晴らしさを理解することができたか（学級活動1） 実践の概要

生徒の学習への意欲を高めるために短所と思っていたことが長所になり、自信をつけた有名人の例（マラソンの高橋尚子選手）をあげた後、各自で事前を書いておいた自分のよさを確認した。次にグループになり、それぞれのよさについてアドバイスしあった。そしてワークシートに自分のよさの中で伸ばしたいものを各自で考えた。その際に他人の意見を参考にしながら、自分が納得できるよさを見つけ出すこと、よさを見つけ出した理由を書くこと、自分が短所に思っていることでも見方を変えれば長所になることの三点を助言した。最後に学習を深めるために中学時代に自分よさに気づき、自信を持った有名人の例（コメディアン 萩本欽一氏）を紹介した。

結果と考察

生徒の感想には、「他の人に新しい自分のよさを見つけてもらって、うれしい」、「自分の知らないよさを他の人がわかってくれてよかった」など自分のよさを知った喜びを記述した者、「客観的に自分を見ると、いろいろなよさがあることがわかった」、「他の人から多くの自分のよさを言われ、自信になった」など自分を肯定的に捉えた者、「自分のよさを大切にしたい、伸ばしたい」などよさを尊重したい気持ちを記述した者は、合わせておよそ6割を越えた。また、「自分が短所と考えていた所が友だちの話で長所になって驚いた。自分を変えてみたい」などの意見がおよそ2割あり、短所が見方を変えれば長所になるというよさを知ることの新たな面を理解することができた。

A子は、当初は「明るい、楽しい、少しだけ運動が得意」を自分のよさとしてあげていた。友人からのアドバイスで「理科の実験に進んでやるので、積極的である」ことをあげられたことにより、新たなよさに気付いた。ワークシートの感想では、「自分では気づかないよさを友だちが教えてくれ自信になった」と書き、自分への自信を持ち始めたようである。

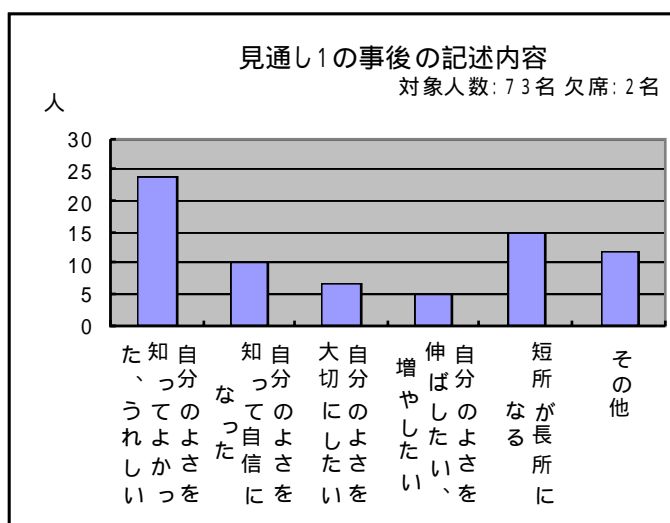
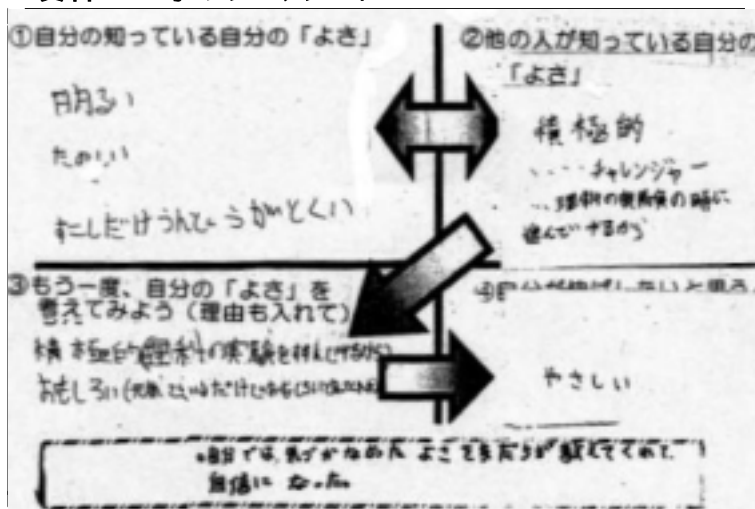


図4 見通し1の事後の記述内容

資料1 A子のワークシート



これらのことから、生徒はよさを知ることのすばらしさについて理解することができたと考える。

(2) 見通し2 自分のよさを伸ばす活動への意欲を高めることができたか(学級活動2)。

実践の概要

事前にワークシートに伸ばしたい自分のよさについて、目指す姿、そのための方法、がんばりたいことを各自で記入しておいた。本時の授業では前回と同じグループになり、よさを伸ばす方法やそのためにがんばりたいことを付箋紙を使い、アドバイスし合った。アドバイスする内容については、具体的にすることを指示した。さらにアドバイスをもとに、自分の計画を再検討し、計画を練り上げる活動を行った。最後に長所を伸ばすことで自分を成長させた有名人の例(元プロサッカー選手・北澤毅氏)を紹介した。

結果と考察

授業では、よいアドバイスには丸をつけ、計画を修正するなど、アドバイスをもとに熱心に自分の計画を練り上げる姿がほとんどの生徒に見られた。

ワークシートの記述内容を見ると、

「英語の授業の時に発音に気を付けながら話す」から「先生が発音している時にしっかりとマネをする」、「たくさんの本を読む」から「朝読書だけでなく、休み時間や家でも本を読むようにする」、「特訓をかかさずやる」から「夕食の手伝いをする」だけでなく、「手伝うだけでなく自分でも作ってみる」などアドバイスを受けたことにより、生徒がよさを伸ばす方法をより具体的にした様子が見える。

これらを受け、事後の感想では、「友だちのアドバイスで自分の良いところが伸ばせると思う」、「計画をたてるだけでなく、実行にうつしたい」、「自分のしなければならぬとがよくわかった」など活動そのものへの気持ちの高まりや今後の方法が明確になった生徒、「友だちにアドバイスしてもらったら方法がよくなった」、「アドバイスをもらおうとまだいろいろ方法があると思った」など方法の改善につながった生徒は、合わせておよそ5割である。

さらに、一人あたり平均10個のアドバイスを受け、そのうち5個を計画に生かすことができた。

自分の考えた方法	アドバイスをもとに改善した方法
・英語の授業の時に発音に気を付けながら話す	・先生が発音している時にしっかりとマネをする。
・たくさんの本を読む。	・朝読書だけでなく、休み時間や家でも本を読むようにする。
・特訓をかかさずやる。	・ポイントを決めて練習する。
・素振りをする。	・上手な人をよく見て素振りをする
・みんなに信頼される。	・友だちとの約束を守る。
・家での手伝いをくせにする。	・言われるのではなく、自分から進んで手伝う。」
・夕食の手伝いをする。	・手伝うだけでなく、自分でも作ってみる。

表2 アドバイスを参考にして方法を改善した例

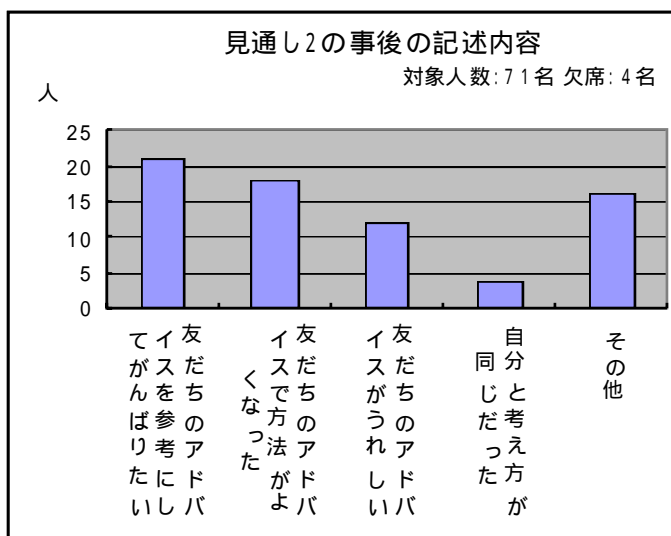


図5 見通し2の事後の記述内容

資料2 A子のワークシート

自分の「よさ」	こんなふうになりたい(目標や夢)	そのための方法・がんばりたいこと、努力したいこと
理科が好き	・科学者になりたいかな。 ・金銭	図書館で科学の本をかいて、理科の勉強をいはいやること。 理科の本をたくさん読むこと。
生活係が好き	・礼儀正しく、あいさつが必ず ・よくできるよくな大人になりたい。	生活係の仕事をしっかりやること。 毎日礼儀正しく、 大きな声であいさつをする。
テニス	・外国人とうまくテニスができる ・ようになりたい。	部活でがんばること。 それから硬式テニスをやること。
心に残るような 友達がいい	・大人になったらいはい友達と会話 ・がしたい。	友達と会話すること。友達と 先生のの前では、敬語を使うこと。

「理科が好き」という自分のよさに気づいたA子は、「科学者になりたい」という目指す姿をたてた。この実現のために「先生に教えてもらう」「毎日理科の勉強をする」などのアドバイスをもとに「科学の本をたくさん読む」という努力点をあげ、活動への意欲をより高めた様子がうかがえる。

これらのことから、よさを伸ばす活動への生徒の意欲を高めることができたと考える。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

中学校教員、生徒・保護者、高校教員の要望を踏まえ、活用しやすい進路指導資料の作成を行った。

一問一答編では、進路指導の基本部分、新しい部分についてキーワードを絞り込んだ。また素朴な疑問や改善のポイントを「問い」にするなど工夫を図った。次に「問い」についての簡潔な答え、さらに内容をより詳しく説明した部分を設けたことで、より読みやすいものを作成することができた。

資料編では、主に教員からの要望を踏まえ、現在学校で必要とされている参考資料を作成した。指導案とワークシートを紹介したので、そのまま授業で活用できる。参考資料の中で読み物資料には、学級活動だけでなく、「個性の伸長」などの価値項目にかかわる道徳の授業でも活用できるものを作成することができた。

2 今後の課題

本資料を活用し、学校で生徒に対してよりよい進路指導が行われるようする。学校の実態に合わせて、資料を修正してもらい、より活用しやすいものにする。

一問一答編については、今後新しい項目や情報を入れてより活用しやすいものにする。資料編については、授業実践を通じて、生徒の変容を促すようにする。

【参考文献】

- ・ 『中学校学習指導要領（平成10年告示）総則編 特別活動編』（文部省 1999年）
- ・ 『中学校・高等学校進路指導の手引き～中学校担任編～』（文部省 1994年）
- ・ 『生徒の夢と希望を育む進路指導』（群馬県教育委員会 1995年）
- ・ 『研究報告書187集』（群馬県総合教育センター 2000年）

